

— ヴィヴァルディの「四季」を思い浮かべてくれ給え。

「四季」の曲のあの冬の場面だ。

山峡の僕の村は今静かな冬を迎えているのだ。

いや、景色は静かなのだが僕の周囲はものすごく忙しくなってきた。冬眠なんてもんじゃない。あべこべだ。夏以上に忙しいんだ。

僕の分教場の活気づいていることったら、一度君に見てもらいたいものだ。もちろん、どうしても君にきて頂くつもりだが、その時期はいつになるか、追ってお知らせすることにするよ。この手紙を読んできたならば、君にきて頂く日どりが、その直前まではっきりしないことについて、よく理解して頂ける筈だ。

「分教場だより」 「ユングフラウの月」
庄野 英二 創文社 1970 年より

今年も「四季」の中で一番、劇的な季節がやってきました。

この東京の庭でも寒い冬を迎えています。けれども、住人たちはこの「分教場だより」の手紙の差出人のように、自然に寄り添いながら、手間を惜しまず、そしてたまには息を抜きながら、日々を楽しく暮らしています

東京の庭

02 暮らし編

目次

山で染めて紡ぐ。	4
鶴の湯温泉と水の話	12
みんなでかこむ、ずりだしうどん	13
お正月のしつらえ	14
たんけん 奥多摩町マップ&神社めぐり	16
東京の庭的_蕎麦ミシュラン	18
みんなでつくるおいしいおやつ	20
木のぬくもりのストーブ	24
てんぶら油力ー 奥多摩を走る!	26